

令和5年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第1回） 議事録

日時：令和5年7月6日（木）

午後2時～4時30分

場所：佐久市役所議会棟第2委員会室

【出席者】阿部部会長、原委員、田村委員、竹重委員、檜山委員、伊藤委員、高橋委員、矢羽田委員、山崎委員、小出委員

【事務局】木内企画課長、安井企画調整係長、小林（誠）主任、金澤主任、小林（拓）主任、井出主事

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（小泉委員）

2 議事

（1）第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
質疑、意見

事務局	①前回の全体会での意見への回答 ②令和4年度佐久市総合計画審議会委員からいただいた意見の その後の検討状況の報告
事務局	基本目標2「佐久市を知って、来て、住みたくなる佐久市における『ひと』の創生」について説明
部会長	基本目標2について、質問、意見等あるか。
委員	昔、畑付きの民宿貸出のような事業を市で行っていなかったか。
事務局	今は行っていない。 関連して、望月でクラインガルテンというものがある。これは、畑付きのコテージのような住宅で、それを貸し出すような取組は行っている。
委員	基本目標2は、移住を増やすということが目的だが、観光の面

委員	<p>では、移住者を増やす面ではあまり影響がないと思う。観光はPRをすれば、こういうイメージのところであることが分かると思うが、暮らすことになってくるとあまり関係がないと私は思う。</p> <p>全国各自治体を視察すると、それぞれ人口減少で逼迫しているような状況である。どうエリアの価値を高めるか、自治体間競争が始まっている。</p> <p>その中で、暮らしやすさとは何なのか、どの自治体も突っ込んだPRを始めている。コロナで人々の価値観も変わっている中、ここに暮らしたら何がいいのかを追及している。その結果、ウェルビーイングを達成することにつながっていく。</p> <p>ある自治体は、あまりに表面的で本質的ではないプロモーションを行っている。</p> <p>佐久市では、令和4年度をベースに令和5年度も取組を継続する訳であるが、佐久市が暮らしやすいか、もっとPRすべきだと思う。暮らしやすければ口コミで広がってくる、それが本質なのではないかと思う。</p> <p>マンホールや北斗の拳が移住者を増やすことにつながるのかという疑問であるから、もう少し暮らしやすさに注力したPRをしたほうがいいのではないかと思う。</p> <p>他の地域と比べてであるが、例えば、A市が企業誘致する、しかし、A市が暮らしにくければB市に住む。こういう現象が各地で起きている、こういったことを認識して、戦略に落とし込んでいけばいい。</p> <p>小諸市は良いポイントを突いているので、内閣府でも経産省でも日本商工会議所でも小諸の名は常に出てくる。地域の特産を生かして若者の移住につなげている。あきる野市や国分寺市、池袋の北口でもこういったことをやっている。</p> <p>せっかくこんな暮らしやすい土地なのに、とてももったいないと感じている。</p> <p>シル、クル、スム、ステップとすればこういう段階で取り組んでいくべきものだと思う。ただ、クルきっかけは他の地域に比べて弱い気がする。地理的優位性はあると思う。</p> <p>移住を増やすには、二地域居住で暮らしやすさを知ってもらうというステップはあるかもしれない。</p>
----	--

委員	<p>基本目標2については、順調に移住者が増えていっている点で評価したい。</p> <p>ただ、人が増えても老人が増えても仕方ないと思う。子育て世代をいかに増やしていくか、ここにかかっている。まずは戦略的にターゲットをもっと絞ったほうがいいと思う。そのための政策はいろいろあると思うが、例えば、教育。御代田町や佐久穂町は新しい学校ができて転入者が増えている実態がある。加えて南箕輪村。そういった町村はターゲットがしっかりしていると思う。</p> <p>例えば、私の息子も佐久市に帰ってきていない。自分たちの子どもたちが帰ってこないまちはダメだと思う。</p>
事務局	<p>佐久市では、特に女性が高校卒業して進学等で首都圏に転出したまま帰ってこないという実態がある。これは大きな問題であり、何とかして帰ってきてもらいたいという思いがある。</p> <p>KPIも20代から40代とターゲットをしぼってやらせてもらっているが、知って来てもらうところまでは難しいものである。</p>
委員	<p>御代田の子ども食堂に毎週通っているが、ある方は、奥さんは横浜の方、旦那さんはスイスの方で、どこに住むか様々な政策を比較し、徹底的に調べたらしい。首長の性格から全て調べたようである。その結果、御代田に住むことを決定したらしい。政策の中身を充実することも重要ではないか。</p>
事務局	<p>佐久市でも教育移住を盛り上げていこうと、佐久穂町の大日向小、軽井沢町のアイザックなど、また、佐久市でも来年4月から旧青沼小に西軽井沢学園のさやか星小学校が開校する。</p> <p>大日向小は佐久穂町にあるが、そこに通う人々の住まいは7割ほど佐久市内であることも聞いている。こういったことが口コミで広がってもらえば教育移住も増えてくるのではないかと思う。また、教育移住検討者へのアプローチも積極的に実施していきたい。</p>
委員	<p>佐久市はどういったまちづくりをしようと思っているか、良く見えない。例えば、他市町村では、二酸化炭素を出さないまちなど。佐久市の売りは何なのか。</p> <p>私は九州からの移住者であるが、もともと佐久市の方に聞く</p>

	<p>と、災害が少ないこと、佐久総合病院が全国的に有名であることがあげられる。そういったものを売りにして、文化庁が京都に移転したように、佐久市が健康と医療のまちなのであれば、厚生労働省を誘致する、災害が少ない点を生かし防衛省の何かしらの拠点を誘致するなど、そういった大きなことを計画してやってもらいたい。佐久市は、長野市や松本市と比べ土地が広いので、そういった誘致もできるのではないか。</p> <p>市内にいろいろな小さな会館ができていますが、学会、歌舞伎、コンサートを呼ぶことができる、全国から人を呼べる、佐久平駅に隣接した大きな施設を作ってほしい。来場者に佐久市を知ってもらうこともできる。</p>
事務局	<p>市長の公約「世界最高健康都市」を実現するため、各医療機関や佐久大学などと連携し各種取組を推進しているところである。</p> <p>文化会館であるが、過去に文化会館建設の是非を問う住民投票を実施し、7割が反対であった。</p> <p>佐久平駅周辺は新幹線の効果もあり、発展しているところであるが、小海線については、赤字区間もあり、国・県・市・関係機関と連携してこれから対策を検討していく状況である。</p>
委員	<p>トヨタ自動車の豊田会長が「クルマってかっこよくなくちゃダメ」というように、プリウスは新型が最近発売され、燃費や静粛性などスペックも素晴らしいものである。</p> <p>佐久市はスペックはものすごく良い。新幹線の駅もあり東京から1時間半で来られる、自然も良い、災害も少ない、活断層も確認されていない、台風も来ないなど。</p> <p>佐久市は何色ですか？色が表せない。定住するにしても佐久市は心に刺さるものがない。佐久市に決める決め手がない。</p> <p>野沢はスーパーも小学校から高校まであり、フルスペックだが、野沢に住みたいと思わない。いろいろ並べたらいいかもしれないが、一言で言い表せない。</p> <p>教育も今ひとつの切り口だと思うし、また、イメージ戦略として、高収入の方が住むような、芦屋のような、団地を用意したらどうか。</p>
委員	<p>佐久市はまちづくりのビジョンがない。一言で言い表せない。</p>

	<p>ビジョンがあっても言い表せないまちになっている。ここが問題である。</p>
事務局	<p>基本目標4「多様な職場、多様な働き方から始める佐久市における仕事の創生」について説明</p>
委員	<p>S0ICについて予算をつけていただいてありがたい。この佐久地域だからできることが非常に重要であり、産官学医の連携により、医療関係の開発等が進みやすい環境整備を推進されたい。</p>
事務局	<p>デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）及びデジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ）について説明</p>
委員	<p>P33の指標について、これはどうやって測定しているか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>指標については、インターネット調査（スクリーニング調査）によって計測している。回収率は、東京圏在住の20代から40代男女20,000人である。</p>

(2) その他

部会長	<p>全体を通して何かあるか。</p>
委員	<p>政策が総花的で、政策にインパクトがない。これが弱みだと思う。金の使い方もパラパラになってしまう。砂地に水を撒いているようで、どこに使ったのかははっきりしない。集中投資、重点化されたい。</p>
委員	<p>佐久市の緑が最近少なくなっているように思う。</p>
委員	<p>佐久市の政策に目玉がない。みんなに自慢できるようなものがあれば良い。</p> <p>佐久市は世界最高健康都市を目指している。健康や福祉だけでなく、スポーツ的な視点を取り入れてほしい。佐久市では、リソ</p>

	<p>ースとして、佐久長聖高校、武道館、総合運動公園など、東信地域まで広げると充実したリソースがある。こうしたリソースを束ねてもらえば、ものすごくいいまちになる。企業が佐久に来るかもしれない。スポーツはお金になるし、産業も付随して入ってくると思うので、ぜひそういった視点で政策をやってほしい。</p> <p>「佐久市」は知らないかもしれないが、「佐久長聖」はみんな知っている。</p>
事務局	<p>長聖も駅伝で佐久を PR している。そういったところとも連携していきたい。秋にはハーフマラン大会も控えている。</p>
委員	<p>ハーフマラソンでは中途半端。ハーフマラソンをやったら OK ではない。駅伝の世界選手権くらいやってほしい。</p> <p>デジタル田園都市国家構想も地域間競争である。地方創生の一丁目一番地はまちづくり。コロナ禍でまちづくりの価値観も変わっているので、民間企業のように、自治体もフットワークよく、方向転換し変化対応してもらいたい。そういった視点があれば、ハーフマラソンという施策は生まれにくい。</p>

3 閉会